



▲収穫されたゆずは、重さ980g、胴回り46cm、高さ11cm。
普通のゆずに比べると、その大きさにびっくり

大きなゆずができました!

井上 洋一さん (原)

11月17日(水)、原にお住まいの井上洋一さんが植えられているゆずの木に、とても大きなゆずがなっているのが発見されました。井上さんは、5年前にゆずの苗木を植えられました。苗木の雪対策など、大切に育てられ、昨年からゆずの実がなり始めました。昨年は通常の大きさはかりでしたが、今年は大変珍しい出来事でした。枝に1つだけあったので、初めです」と井上さん。

調べてくざると、これは「獅子ゆず」という大きなゆずの種類のようですが、1つだけ大きく育つという大変珍しい出来事でした。

森林を一緒に守っていこう

琵琶湖森林づくりパートナー協定

滋賀県では水源の森林と下流域の企業の支援とをつなぐ「琵琶湖森林づくりパートナー協定」の取り組みを進められています。このたび、町内で初めての協定が綿向生産森林組合と積水樹脂(株)(本社・大阪市)との間で締結されました。これにより今後5年間、両者が協働して水源の森林づくりを進められます。

11月20日(土)には、同社社員の手による第1回の森林保全活動が実施され、社員とご家族57名の方により、間伐作業をされました。

日野町の山を守り育てる新たな取り組みとして、今後さらなる交流の進展が期待されます。



▲熊野で森林整備をされました



▲改修中の古民家を視察する山本大臣 (写真右から2人目)

まちのたからを体感

カナダから古民家などを視察

11月27日(土)、カナダのブリティッシュ・コロンビア州の建築法規改正担当州務大臣である山本ナオミさんが日本の古民家再生を学ぶため、来町されました。

町内の古民家2軒を訪れ、日本の古民家再生を視察されました。囲炉裏やおくどさん、防虫効果のある樹種などに興味を持たれ、釘を使用しない建築方法に驚かれました。視察を終えて、山本大臣は、「この素晴らしい環境の中で生活されていることがうらやましい」と話してくださいました。

町内の散策もされ、たくさんの「日野のたから」を見学して帰られました。

手作りかるたで まちを知ろう

日野町ふるさとかるた完成記念事業



▲かるた大会決勝戦

町の歴史文化や特産品など、ふるさとの良さがたくさん詰まったかるたの完成となりました。

方が絵をつけられました。

11月27日(土)、町民会館わたむきホール虹で、日野町ふるさとかるた完成記念事業が開催され、かるた大会やスライドと朗読によるかるた紹介、講演会が行われました。



▲手作りの温かさのあるかるた。町内の教育機関や福祉施設などに贈られます

シャッターの絵で明るく元気に

日野高等学校 美術部

11月下旬から、日野高等学校美術部の生徒約10名が、松尾にある市川呉服店と山田菓舗のシャッターに絵を描かれています。これは、市川呉服店の市川隆一さんがシャッターの閉まっているときでもお店のことが分かり、町が活性化することにもつながればと日野高等学校に相談して実現したものです。図案は、お店の方の希望を聞いて、高校生が作成されました。

生徒たちは、「描かせてもらえるだけでうれしい。町が元気になることにつながれば」と話されていました。



▲天秤棒をかつぐ商人やしゃくなげなどの絵を製作。授業が終わってから、作業に取り組みれます



子どもたちの可能性を引き出す

豊かな学び 桜谷講座



▲プログラミングしたロボットでサッカーゲームをしました

12月2日(木)、3日(金)、桜谷小学校で3〜6年生を対象に「ロボットを作ってみませんか」と題して、ロボットのプログラミングの授業が行われました。これは、「豊かな学び桜谷講座」(全6回)の第6回目の講座で、京都大学から北原達正さんが講師として来られました。

児童たちは、車の形をしたロボットにコンピューターを使って、前進させたり、回転させたりするための情報を入力しました。最後は、ボールを認識して追いかけるようになるまでを実践。ロボットが入力どおりの動きをすると、児童たちは大喜びでした。